

平成27年度 教育事業 錦江湾（ワン）ダブル探検隊

～錦江湾の不思議を学ぼう～

- 1 趣 旨 世界でも珍しい特徴を多く持つ錦江湾（鹿児島湾），その自然に息づく生き物たちを知ることにより，豊かな自然を実感する体験活動を行う。また，活動をとおして環境問題に関心を高め，自然を大切にしていこうとする心情や態度を培う。
- 2 期 日 平成27年5月23日（土）～24日（日）1泊2日
- 3 対象者 小学校5年生～中学生
- 4 募集定員 30名
- 5 参加者 35名（小学生30名，中学生5名）
- 6 指導者 鹿児島大学水産学部 教授 大富 潤 氏
鹿児島大学水産学部 助教 横山佐一郎氏
FIN潜水指導センター 永濱末雄氏
鹿屋市漁業協同組合
国立大隅青少年自然の家 職員 ボランティア4名

7 日程と主な活動

時刻	5月23日（土）	時刻	5月24日（日）
9:30	受付（自然の家）	5:30	起床・洗面・荷物整理
10:00	開講式 ・自然の家あいさつ ・自己紹介等 ・日程説明	6:20	鹿屋市漁業協同組合へ移動
10:30	【講義・体験①】 「錦江湾深海底の生き物について」 「おいしいさかなの育てかた」 ・海の生き物にふれてみよう！	7:00	【体験②】 「朝食・えさやり体験をしよう」
12:30	昼食	9:30	【見学】 「施設見学をしよう」
13:30	高須海水浴場へ移動	11:00	【体験③】 「錦江湾の魚をさばいてみよう」
14:00	【観察①】 「生き物の採取・観察をしよう」 【環境学習】 「ビーチコーミング」	12:00	昼食「錦江湾の魚を食べてみよう」
17:00	本館へ移動	13:00	まとめ・感想発表
17:30	自然の家到着 オリエンテーション	13:45	閉講式
18:00	夕食	14:00	解散 バスは垂水港へ
19:00	入浴		
20:00	荷物整理・就寝準備		
21:00	就寝		



8 事業運営について

本事業は、錦江湾や海の生き物を身近に感じながら学べるように、次の点に留意してプログラムを立案した。

- (1) 錦江湾に対する興味関心を高めるために、講義や観察、体験など多くの学習機会を提供できるように計画をした。
- (2) 生物採取や調理体験など、生き物に触れる機会を多く設定することで実感を伴った学習ができるようにした。
- (3) 大学や漁協、地域人材との連携をすることで、より専門的な自然体験ができるように計画をした。

9 事業の実際

- (1) 【講義・体験①】では、鹿児島大学水産学部の大富潤教授と横山佐一郎助教を講師として招聘して講義を行った。講義では、錦江湾深海底の生き物に関する内容や錦江湾の養殖業についての内容を聞くことができた。参加者は、話に耳を傾け、熱心にメモをとる姿が見られた。後半は、実際に水揚げされた生物に触れながら説明を聞くことができた。また、養殖のエサ作りを体験することもできた。
- (2) 【演習・観察①】では、地域で潜水指導を行われている永濱末雄氏を講師として招聘した。当日は悪天候のために高須地区学習センター内で講義を行った。錦江湾の身近な生物や環境問題について話を聞くことができた。後半は天候が少し回復をしたため、ビーチコーミングを行った。参加者は、気に入った色や形の貝やビーチグラスなどを楽しんで拾っていた。最後に、仕掛けで採取した生き物を見ながら学習のまとめをすることができた。
- (3) 【体験②・見学】は、鹿屋市漁業協同組合で養殖カンパチの給餌体験を実施した。早朝から船に乗り、沖のイケスへ向かう途中の船上で朝食をとった。イケスに到着後、えさやりを行ったが、えさを元気よく食べている魚の様子を見て、参加者は驚いていた。また、イケスの掃除ロボットの実演も興味深く見る事ができた。その後、餌を保管する大型冷蔵庫や加工場などの施設見学を行った。参加者は初めて見るものばかりで漁協の方の説明をしっかり聞いていた。
- (4) 【体験③】では、錦江湾で採れた魚の捌き方体験を行った。参加者のほとんどが初めての体験であったが、真剣に取り組むことができた。自分の捌いた魚を美味しそうに食べる姿が印象的であった。

10 成果

- 体験活動を通して錦江湾を学ばせたいというねらいと錦江湾や魚に興味関心をもってほしいという講師の方々の願いが重なったことによって、連携をうまく進めることができた。
- 専門的な知識・技能をもつ講師と連携をすることによって、錦江湾深海底の様子や実際に生息する生き物をたくさん見せることができ、様々な学習を通して錦江湾の魅力を紹介することができた。

